

島の朝は爽快！ 生きている！ を実感。

【回天・大津島合宿】 編

離島で操縦訓練

回天の操縦は非常に難しく、乗組員は猛烈に訓練をしなければならなかった。操縦訓練をするための基地は箇所に造られた。山口県には3ヶ所(平生町、光市、周南市大津島)、大分県には1ヶ所(大神)。その中で離島は、ここ大津島だけ。当時、島への立ち入りは厳しく制限された。

山口県周南市大津島

2日目

朝のヤッホー体操

中條高德学長
気をためて大声を発する

やーっ

(10秒後に、ホー、と続きます)

(汗)

やっ...

パッ!

やっ~

ポーズをみて分かるように
恥じらいがある駄目な例

合格ヤッホーの例
かなりマジで叫んでいます

ヤッホー体操とは

中條高德学長が、毎朝6時から、東京の九段下で発せさせている。



スヤスヤ

学生たちは広い研修室で雑魚寝を。これが合宿の醍醐味である...



海は真っ青だし
基地は、リアルだな...

トンネルを抜けると回天訓練基地につながる。回天発進跡はそのまま遺っている。

注目！ トンネル内の展示

ホンモノの回天だ

回天基地までのびるトンネル。
当時の写真が展示される

合宿2日目、早朝散歩は回天訓練基地まで散策をする。回天訓練は命がけ。どんな思いでトンネルをくぐったのか？

夜が明けた。朝6時、陽はグングンと昇り本日も快晴。全員、瀬戸内海に向かってのびのびとラジオ体操を行った。中條学長と一緒にヤッホー体操をする。これがアサヒビール現役時代から続られてこられたストレス発散法とのこと。そして回天基地まで散策をした。当時の面影をそのまま遺している基地跡やトンネル、その時代の若者たちは、どんな思いだったのだろうか、と思わず考えてしまう。回天の操縦訓練中で命を落とされた黒木少佐も、ここを出発している。

朝食は学生たちが作ったものが食卓に並んだ。食事を終え、最後の研修へ。参加者全員でアウトプットを行い、中條学長が総括された。戦争は繰り返してはいけない。純粋に家族を想い、国を想い、自らの命を犠牲にした若者がいた。そして今の日本がある。その恵まれた国で、これから先、我々は何をしなければならないのか、参加者それぞれが決意する合宿だった。

全員でアウトプット

2期生の自己紹介します

回天の感想アウトプット

学長、こんな間近で熱弁！

中條学長による総括

学生の感想

1、僕らがいかに甘く自由で楽な生活を送っているか。日ごろ不平を言うのが情けなく思い、幸せな時代を生きていることに感謝の気持ちが生まれてきました。

2、黒木少佐が事故に遭い、酸素がなくなる回天で、同志のために冷静に状況を記録したという話には鳥肌が立ちました。

3、本当に極秘作戦だったのだろう。まだ分かっていない事実が、知覧より断然多いように感じた。朝、回天の発進台に行った時、あのトンネルの雰囲気は、そのままだと思った。日本の為、家族のためという思いで発進して行った先人に感謝し、戦争は、二度と繰り返してはいけない。



朝もおにぎり味噌汁、男ソーメン、すべて手作り



おにぎり

海苔が不足し
節約気味
おにぎり



人間魚雷回天のレプリカ



記念撮影

初の回天合宿、我々が同志たち

2011年8月6(土)7(日)
開催決定！

お問い合わせは、
日本ベンチャー大学事務局まで